

「第26回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和2年12月30日(水) 13時00分
都庁第一本庁舎7階 大会議室

【危機管理監】

それでは、第26回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日も、この会議には、新型コロナウイルスタスクフォースのメンバーの東京都医師会副会長でいらっしゃいます猪口先生と、そして、国立国際医療研究センター国際感染症センター長でいらっしゃいます大曲先生、そして、東京 iCDC 専門家ボード座長でいらっしゃいます賀来先生にご出席をいただいています。よろしくお願いいたします。

会議の次第につきましては、お手元に配付の資料の通りでございます。

それでは2項目目、「感染状況・医療提供体制の分析」につきまして、まず「感染状況」について、大曲先生からお願いいたします。

【大曲先生】

それでは、ご報告いたします。

まず、「感染状況」でございますけれども、今回の判定としましては、「感染が拡大していると思われる」というところで、赤印としております。

新規陽性者数の7日間平均ですけれども、3週連続で急速に増加をしております。感染拡大の防止策の効果が出るには、これまでの経験から2、3週間を必要とします。ですので、より強い対策を直ちに実行する必要があると、今回は判定をしております。

それでは、詳細について申し上げます。

まず、報告しております東京都の外で採取された唾液検体、そして、それが東京都に送られて検査をされて陽性になった場合に届出がされる分がございます。

こちらは、発生地が東京都外ですので、我々のカウントからは外しておりますが、参考までに、今回は214名ございました。

「新規陽性者数」でございますけれども、7日間平均でございますが、前回は約617人、これが今回12月29日時点で約751人となりまして、19日連続で最大値を更新しているという状況でございます。

増加比を見ていきますと、前回と同じ約123%というところで、非常に高い水準でございます。この7日間平均でございますけれども、3週連続で最大値を更新しております。

新規の陽性者数、これを週当たりで見ますと、5,000人を超えております。このように感染拡大が続いているという状況であります。

通常の医療が逼迫する状況は、さらに深刻となっております。新規の陽性者数の増加を

徹底的に防御しなければならないという状況でございます。

現在、増加比は約 123%と申し上げましたが、これが 2 週間継続すると約 1.5 倍、1 日当たり約 1,136 人になります。

このうち、現在、都では 25%ほどの方がご入院されます。そして、平均 17 日間程度ご入院になられます。

ですので、この入院の比率等々が変わらなければ、1 週間後を待たずに、確保した 4,000 床を超える入院患者が出る可能性もあるということで、破綻の危機に瀕しているという状況でございます。

感染防止対策の効果が始めるには、これまでの経験から、2~3 週間を必要とします。ですので、より強い対策を直ちに実行する必要がございます。

また、今週の一つ変化としましては、感染力が強いとされている英国と、そして、南アフリカ共和国から発生した変異株による影響を注視していく必要がございます。

また、患者の重症化を防ぐという観点では、陽性者の早期発見が重要でございます。

感染の拡大防止の観点からも、発熱や咳、痰、全身のだるさ、こういった症状がある場合には、かかりつけ医に電話相談すること。そして、かかりつけ医がない場合は、東京都の発熱相談センターに電話相談することなど、都民に対する普及啓発が必要と考えております。

実際に開いている外来等では、問い合わせ等も増えておりますので、この点に関しては、改めて申し上げておきたいと思っております。

次に、グラフ①-2 にお移りください。

年代別の構成比でございます。今回ですけれども、10 歳未満が 2.5%、10 代が 5%、20 代が 26.9%、30 代が 20.3%、40 代が 15.9%、50 代が 13.5%、60 代が 6.5%、70 代が 4.8%、80 代が 3.6%、90 代以上になりますと、1%でございました。

11 月 30 日と比較した場合の違いですけれども、今回は 20 代、30 代の割合が増加しているという状況でございます。

次に、①-3 に移ります。

高齢者を特出ししてご紹介いたしますと、今週ですけれども、65 歳以上の高齢者の陽性の方の数ですけれども、前週が 572 人でありましたが、今週は 599 人という状況です。全体の比率でいきますと 12%という状況でございました。

7 日間平均ですけれども、前回の約 80 人から 12 月 29 日時点で約 94 人と増加しております。重症化リスクの高い 65 歳以上の新規の陽性者、そして、その 7 日間平均ですが、このように非常に高い値で推移しております。

家庭、施設等をはじめとした、高齢者の感染の機会をあらゆる場面で減らすとともに、基本的な感染予防策、手洗い、マスク着用、3 密を避ける、環境の清拭、消毒、これを徹底する必要があります。

また、重症化リスクの高い高齢者等への家庭内での感染を防ぐには、そもそもですね、家

庭の外で活動する家族が、新型コロナウイルスに感染しないということが最も重要であります。家庭内感染とは、ある意味、結果ですので、その原因を断つことは必要ということです。無症状であっても、感染リスクあることに留意する必要があります。

次に、①-5に移ります。

濃厚接触者における感染経路別の割合でございますけれども、同居する人からの感染、これが前週と比べて増加し、49.3%と最も多く、そして、次いで施設というところで、これが16.2%でありました。続くのが職場で14%、会食が7.2%、接待を伴う飲食店等が1.4%というところでございます。

今週の濃厚接触者における感染経路別の割合、年代別で見ていきますと、80代以上を除くすべての年代で、同居する人からの感染が最も多いというところでございました。次いで多かったのは、10代以下及び70代では施設、20代から60代では職場というところでございました。80代以上では、施設での感染が59.1%と最も多かったというところであります。

また、先ほど申し上げましたけれども、状況としては、英国及び南アフリカ共和国からの複数の帰国者の検体から新型コロナウイルスの変異株が検出されているという状況でございます。

このように、日常生活の中で感染するリスクが高まっております。保健所業務への大きな支障の発生、そして医療提供体制の深刻な機能不全を避けるように、感染拡大の防止策が必要でございます。

また、70代以上ですけれども、施設での感染が前週151人ございましたけれども、今回は123人と減少しております。ただ、同居する人からの感染が前週の77人から114人に大幅に増加しております。

高齢者と同居する家族が、家庭に新型コロナウイルス感染症を持ち込まないように、最大限の注意を払うということが必要であります。

また、同居する人からの感染が最も多いという状況ではございますけれども、職場、施設、会食、接待を伴う飲食店など、感染経路は多岐にわたっております。本当に社会の様々な場に感染のリスクがあるという状況でございます。

職場、施設、寮などの共同生活、あるいは家庭内等での感染拡大を防ぐために、今一度、家族、職場、施設で、自ら感染防止対策を徹底する必要があります。

また、寒波が来るといわれていることですが、特に不特定多数が集まる場では、外が寒くて暖房入れていてもですね、窓やドアを開けて風を通すということで、換気の徹底が必要であります。

また、年末に入って参りました。お正月、新年会、成人式、これらではですね、人と人が密に接触して、マスクを外して、長時間または深夜にわたる飲食、あるいは飲酒、複数店にまたがり、飲食あるいは飲酒を行うということが起こりますし、また、大声で会話をするといったことも起こり得ます。これらは、感染のリスクを非常に高めます。

基本的な感染防止対策が徹底されていない大人数での、長時間におよぶ会食、あるいは多数

の人が密集し、かつ大声等の発声を伴うイベント、パーティー、これらは感染のリスクを増大させ、新規の陽性者数がさらに増加します。

こうした年末年始のイベントと言いますか、行事に関しては、在留外国人の方も一緒でありまして、新年あるいは旧正月に向けて、自国の伝統あるいは風習等に基づいたお祭りがあります。そこで密に集まって飲食等を行うということが予想されるわけでありまして。これらに対して、言語ですとか生活習慣等の違いに配慮して、在留外国人の方々へ情報提供する。そして、支援をするということが必要であります。

また、友人や家族との旅行ですとか、あるいは友人と大人数でのキャンプですね。あるいは忘年会、マスクなしで会食をする。大学の運動部で合宿所での感染、こうしたことが報告されております。

また、市中での感染リスクは増加しております。複数の病院、高齢者施設において、職員、患者、利用される方も含めた感染例が多発しております。特に、院内感染が拡大しますと、当該医療機関の医療提供体制が低下するだけでなく、重症患者、死亡者が増えますし、都内の医療機能や連携システムに影響が生じます。ですので、こうならないために感染拡大を防がなければいけないということで、職員による院内・施設内感染の感染拡大防止対策の徹底が必要でございます。

次に、①-6に移って参ります。

無症状の方のデータでありますけれども、今週の新規の陽性の方が 5,007 人おられましたけれども、無症状の陽性者 958 人、割合としては 19.1%というところでございます。無症状あるいは症状の乏しい感染者の行動範囲が、やはりこれは広がっています。

引き続き、感染機会があった無症状者を含めた集中的な PCR 検査等の体制強化が求められております。

また、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、病院、こうした重症化リスクの高い施設、あるいは訪問看護の場において、クラスターが発生している状況であります。

特に、高齢者施設、あるいは医療施設に対する積極的な検査の実施が必要と考えております。

次に、①-7に移ります。

地域を見ていきますけれども、今週の保健所別の届出数を見ていきますと、みなとが 401 人、8%で最も多くて、次に世田谷が 344 人で 6.9%でありました。新宿は 306 人、6.1%、大田区は 279 人、5.6%、渋谷区は 265 人、5.3%という順でございます。新規の陽性者数が数週にわたって急増しております。それに伴って、都内の保健所の約 7 割を超える 23 の保健所で 100 人を超えておりますし、9 の保健所では、200 人を超える新規の陽性者数が報告されているという状況でございます。

①-8には、地図で状況をお示ししておりますけれども、非常に濃い赤あるいは紫というところが目立つわけでありまして。都内全域で、急速に感染が拡大しているという状況が見てとれます。このように、どこにもコロナはあるという状況でもありますし、感染経路が多様

だということはお話をしました。つまり、日常生活の中で感染するリスクが高まっております。

保健所業務への大きな支障の発生、あるいは医療提供体制の深刻な機能不全を避けるための最大限の感染防止対策が必要となっております。

次に、②に移ります。

「#7119における発熱等相談件数」でございます。

こちらの7日間平均でございますけれども、前は60.1件でございます。12月29日で67.9件という状況でございます。

一方ですね、都が10月30日に新たに設置した発熱相談の相談センターの状況でありますけれども、この相談件数の7日間平均、これが12月2日時点で約1,004件でございます。これが12月27日時点で約1,543件ということで、約1.5倍に増加しているという状況でございます。つまり、発熱等の相談を求める都民が増加しているという状況でございます。このような相談のニーズに対する対応状況を注視しながら、相談体制を強化していく必要がございます。

次に、③「新規陽性者数における接触歴等不明者数・増加比」に移って参ります。

③-1、接触歴等の不明者数でございますけれども、7日間平均で、前回約363人だったものが、今回は約476人に増加しているという状況でございます。これまでの最大値を更新しているという状況でございます。

③-2にお移りいただけますでしょうか。

この増加比を見ていききたいと思います。この増加比ですけれども、100%を超えてきますと、感染拡大の指標ということでお示ししておりますが、12月29日時点での増加は約134%でございます。

新規の陽性者数が多いということを申し上げてきましたが、その中での接触歴等不明者、この増加比ですけれども、約134%ということで、こちらも高い水準のまま推移しております。さらに増加するというところへの厳重な警戒が必要でございます。

この約134%という数字でございますが、2週間継続しますと、1月13日には約1.8倍、1日あたりで約857人の接触歴等の不明者が発生することになります。

年末年始を超えてですね、増加し続けたときには、4週間後の1月27日には約3.2倍、1日当たり1,532人の接触歴等不明者が発生することになります。

ということで、まさに今が瀬戸際というところでありまして、直ちにより強力な感染防止対策を行う必要がございます。

次に、③-3にお移りください。

今週の新規陽性者に対する接触歴等の不明者数の割合、これを見ております。全体としては、約62%でございます。

前週が約59%、前々週が約56%ということでありましたので、上昇しております。これは注視していく必要がございます。

これを年代別で見えていきますと、接触歴等不明者の割合は、30代で70%を超えているところからです。20代、40代、そして50代は60%を超えています。60代は50%を超えて高い数値でございますし、特に男性ではですね、30～60代で40%を超えるという状況でございます。20代～60代において接触歴等不明者の割合が50%を超えております。

社会活動が活発化していると、この状況を反映して、感染経路が不明になっている。そういう可能性がございます。

ということで、新規陽性者数等々を含めてご報告して参りました。現場の感覚的には、やはりこれまでに経験したことがない状況でありまして、やはり4月ごろの状況を思い出すような感じでございます。

私からは以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

続きまして、「医療提供体制」につきまして、猪口先生からお願いいたします。

【猪口先生】

では、「医療提供体制」に関しまして、まず総括コメントですね、「体制が逼迫していると思われる」と、矢印を見ていただきますと、「感染状況」から「医療提供体制」まで、すべて上向き、すべて状況が悪化しているという状況です。

入院患者数は、2,000人を超える非常に高い水準で増加しており、医療提供体制が逼迫した、危機的状況に直面している。

新規陽性者数の増加を直ちに抑制し、重症者数の増加を防ぐことが最も重要であるということです。

大曲先生の最初の感染者の①のところでもコメントがありましたけれども、破綻の危機に瀕すると、このままの状況でいくと、破綻の危機に瀕する可能性が非常に高いという状況です。

では、④の「検査の陽性率」です。

7日間平均のPCR検査等の要請率は、前々回の6.7%、前回の7.3%から8.4%と、11月初旬から連続して増加しています。

また、7日間平均のPCR検査等の人数は、前回は7,818人で、今回は8,085人と、8,000人を超えました。

PCR検査等の陽性率は、新規陽性者数の増加により、8%台の高い値に増加しております。⑤です。

「東京ルールの適用件数」の7日間平均は、前回の55.4件から12月29日時点で60.9件と増加しました。

今週、東京ルールの適用件数は、12月3日の39.1件から約6割増加していることから、

今後の推移を注視する必要があります。

これは救急医療ですので、この救急医療に関して、何か問題点が出てこないか、非常に危惧されるところであります。

⑥です。

⑥-1、12月29日時点の入院患者数は増加傾向が続き、前回の2,103人から2,274人と増加しました。

今週、入院患者数は2,000人を超える非常に高い水準が続いており、医療提供体制が逼迫し、危機的状況に直面しています。

現在の増加比、約123%が2週間継続すると、約1.5倍になります。

入院率が変わらなければ、2週間後を待たずに確保した4,000床を超える可能性があります。

入院患者数の急増に対応するため、都は、レベル3-1、重症病床250床、中等症用病床3,750床の病床の確保を医療機関に要請し、約3,500床、都立・公社病院が1,110床を確保しております。

都は、既に依頼している都立・公社病院に加え、その他の感染症指定医療機関8病院に対し、中等症病床の倍増、約70床を依頼しました。

保健所から入院調整本部への調整依頼件数は、新規陽性者数の急増に伴い、150件を超える非常に高い水準で推移し、医療機関の受け入れ体制は逼迫しています。

特に、透析患者や小児患者の受け入れ調整が難航しています。連日、翌日以降の調整に繰り越し、待機を余儀なくされる例が多数生じています。

医療機関が休日体制となる年末年始には、受け入れ体制はさらに逼迫すると考えられます。

⑥-2、お願いします。

入院患者の年代別割合は、60代以上が11月中旬以降、高い割合で推移しております。全体の6割になっております。また、12月以降は80代の割合が増加しております。

⑥-3です。

検査陽性者の全療養者数は増加傾向が続き、前回6,027人から今回の12月29日時点で7,652人と大幅に増加しました。内訳は、入院患者2,274人、宿泊患者1,118人、自宅療養者2,768人、前回は1,886人でした。入院等の調整中は1,492人、前回は1,055人で、いずれも大きく増加しております。

自宅療養者の急激な増加に伴い、健康観察を行う保健所業務が急増しており、都は、自宅療養者のコントロールセンターによる健康相談を都内全域に拡大するなど、フォローアップ体制の充実を図っております。

保健所と共同し、東京iCDCのタスクフォースにおいて整備した「宿泊施設療養／入院判断フロー」を改定し、基礎疾患がない70歳未満の方も宿泊療養を可能といたしました。

「重症患者」です。⑦-1ですね、重症患者数は前回の69人から12月29日時点で84人

と増加しました。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は、先週の 37 人から 50 人に増加しております。人工呼吸器から離脱した患者は、先週の 37 人から 24 人に減少し、人工呼吸器使用中に死亡した患者さんは、先週の 8 人から 6 人に減少しました。

今週、新たに ECMO を導入した患者さんは 3 人で、離脱した患者さんも 3 人でした。12 月 29 日時点において、人工呼吸器を装着している患者が 84 人で、うち 7 人の患者が ECMO を使用しております。

12 月 28 日時点で、集中的な管理を行っている重症患者に準じる患者は、人工呼吸器または ECMO の治療が間もなく必要になる可能性が高い状態の患者等が 98 人、離脱後の不安定な状態の患者が 34 人、こうした患者さんも、重症の ICU 等で見ると必要があるということで、カウントしております。

新規陽性者数の増加比は約 123% となりまして、2 週間後の 1 月 13 日までに新たに発生する重症患者数は約 143 人となり、重症用病床の不足がより顕在化します。

この増加比がずっとそうなるだろうという数字なんですけども、かなり大変な数字になって参ります。

今週、人工呼吸器を離脱した患者の装着から離脱までの日数の中央値は 7.0 日、平均値は 9.1 日でした。人工呼吸器の離脱まで長期間を要する患者が増加すると、重症患者数が急増する可能性があります。

重症患者の治療に当たる医療機関の負担が増えており、医療提供体制が逼迫しております。

⑦-2 です。

12 月 29 日時点の重症患者 84 人、年代別内訳は 30 代が 1 人、40 代が 4 人、50 代が 8 人、60 代が 24 人、70 代が 32 人、80 代が 14 人、その他が 1 人であります。

年代別に見ると、70 代の重症患者数が最も多かったです。性別では、男性 65 人、女性 18 人でした。

⑦-3、お願いいたします。

新規重症患者数の 7 日間平均は、6.3 人から 7.1 人と増加しました。

重症患者数は約 50 人と高い水準となっており、1 日で新規の人工呼吸器を装着した患者が 15 人に上りました。これは、12 月 24 日の話ですけども、15 人に上りました。

例年、冬季は、脳卒中・心筋梗塞など、入院患者が増加する時期であり、現状の患者動向が継続すれば、新型コロナウイルス感染症の重症患者だけでなく、他の傷病による重症患者の受け入れが困難になり、多くの命が失われる可能性があります。

重症患者の約 5 割は今週新たに人工呼吸器を装着した患者です。陽性判明日から、人工呼吸器の装着まで平均 7.1 日で、入院から人工呼吸器装着まで平均 4.0 日でした。

そのうち 12 月 29 日時点で継続して装着している患者は 42 人で、うち 11 人が陽性判明日から 2 日以内に人工呼吸器を装着しました。

最近、重症化して救急に乗るといふ患者さんが報告されるようになって参りました。自覚症状に乏しい高齢者などは、受診が遅れがちであると思われ、患者の重症化を防ぐためには、症状がある人は早期に受診相談するよう、普及啓発する必要があります。

「医療提供体制」としては、以上であります。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、意見交換に移ります。

まず、ご説明のありました、モニタリングの分析に関しまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。

それでは、都の対応に移りたいと思いますが、都の対応等で、この場でご報告等ある方、いらっしゃいますか。

よろしければ、賀来先生からお願いできればと思います。

【賀来先生】

ただいま、大曲先生、猪口先生から分析結果の報告がございました。「感染状況」、「医療提供体制」とも非常に厳しい状況であるということで、今後とも対策を引き続き強化していく必要があると思います。

また、現在国内でイギリス及び南アフリカで流行している変異株が検出されております。このようなことから、都内での変異株での感染状況を把握するために、東京 iCDC の専門家ボードや、外部アドバイザーを結集し、新たな検討チームを立ち上げることにいたしました。

これを受け、早速、東京都健康安全研究センターでは、都内で検出された新型コロナウイルスについて、早速、遺伝子変異の有無をスクリーニングする体制を整えております。このような体制をしっかりと、東京 iCDC は今後とも支援していきたいと思っております。

以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、会のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

【都知事】

猪口先生、大曲先生、そして賀来先生、今年最後のモニタリング会議でございました。ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

そして、先生方から引き続き、「感染状況」、「医療提供体制」とも最高レベル、赤の総括コメントいただきました。

感染状況、医療提供体制については、新規陽性者数の7日間平均が3週連続で急速に増加していること。

入院患者数は2,000人を超える非常に高い水準での増加。医療提供体制が逼迫して、危機的状况に直面しているということ。感染拡大防止策の効果が出始めるには2、3週間を必要とするために、より強い対策を直ちに実行することが必要と、このような分析でございます。

また、感染経路については、家庭内での感染が前週から大幅に増加しており、全体の約半数を占めているということ。

そして、さらに今週は、イギリス、南アフリカからの帰国者の検体から新型コロナウイルス変異株が検出されているという点。

そして、重症患者数については、今週84人、うち70代以上が半数以上、そして、今週報告された死亡者については46人でしたが、そのうち42人が70代以上であったとのご指摘を賜りました。

以上を踏まえまして、都民・事業者の皆様へのお願いでございます。

都民の皆様方には、買い物、通院などやむを得ない場合を除き、外出の自粛をお願いいたします。

忘年会、新年会も、自粛をお願いいたします。

帰省、初詣も、今年はお控えください。

特に高齢者、そして基礎疾患のある皆様方には、外出の自粛をお願いします。そして、会食への参加は厳に慎んでいただきたい。

そして、同居のご家族の皆様方にもお願いです。家庭内でのマスク着用をお願いいたします。

若い世代の皆様方には、夜間の外出の自粛をお願いいたします。

若い方でも、入院・重症化のリスクがある。そして、長引く後遺症に悩まされている方もおられる。それらのことを踏まえまして、皆さん自身の将来を見守るための行動をお願いいたします。

そして、事業者の皆様方への改めてのお願いでございます。酒類を提供する飲食店等の事業者の皆様には、年末年始の書き入れ時にご負担をおかけいたしますが、引き続き、来年1月11日までの営業時間短縮へのご協力をお願い申し上げます。

また、従業員の皆様方のテレワーク、時差出勤、休暇の分散取得、こちらを改めて強力に推進をしてください。

そして、医療提供体制等ではありますが、重症病床が現在220床、そして合計で3,500床の病床を確保しております。

都は、4,000床の確保に向けて、すでに要請をしておりますが、これに加えて、中等症等の病床を倍増するよう、感染症医療機関に依頼をいたしました。

また、新規陽性者の急増に伴います自宅療養者の増加に対応するために、コールセンターによる健康相談を都内全域に拡大するなど、在宅でのフォローアップ体制も拡充している

ところであります。

宿泊療養施設を含めて、療養患者を確実に支えて参ります。

そして、先ほど賀来先生からお話がありました。東京 iCDC では、イギリス、南アフリカ共和国で流行している変異株の都内での発生状況を把握するために、新たな検討チームを立ち上げたところであります。

できる限り早く報告があることを期待いたしておりますので、よろしく願いいたします。

そして、これ以上の感染拡大は何としてでも食い止めなければなりません。

「都民の皆様命を守る」ためには、この年末年始の取組が極めて重要であります。

「感染しない、感染させない」、この行動を徹底してください。

改めて皆様方のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

私からは以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第 26 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。